

憲 法

江島晶子・山元 一・巻 美矢紀
村西良太・栗島智明

1 はじめに

先期に引き続き筆者らが担当する（担当箇所は個別に明示）。本欄で取り上げるのは、本誌の昨年10月号から本年9月号の文献月報に掲載された著書・論文である（なお、公刊時期等の関係で対象期間外でも、筆者らの判断によりレビューを行ったものがある）。本欄は、基本的に従来の方針を引き継ぎ、研究キャリアの比較的浅い研究者（early career researchers、以下、ECR）による業績に比重を置きつつ、その概要の紹介を行うとともに、代表的な研究業績のリストアップを行った。原則として、外国憲法に特化したものは取り上げず（ただし、ECRの場合には比較法研究が中心となるため例外もある）、判例評釈・翻訳・書評・一般向けの書籍や雑誌記事なども原則として取り上げない（なお、例外的に筆者らの判断によりレビューを行ったものがある）。

2 論文集・雑誌連載・雑誌特集・教科書

今期は、国際人権法学会30周年企画『新国際人権法講座』（信山社）第6巻として阿部浩己編『国際人権法の動態：支える力、顕現する脅威』（以下「新講座Ⅵ」）が発刊され全7巻が完結した。『講座 立憲主義と憲法学』（信山社）は、第6巻として江島晶子編『グローバルな立憲主義と憲法学』（以下、「グローバル」）が刊行された。新規では、『怪獣化するプラットフォーム権力と法Ⅰ～Ⅳ』（慶應義塾大学出版会、以下、「プラットフォームⅠ～Ⅳ」）が刊行され、山本龍彦監修『講座 情報法の未来をひらく：AI時代の新論点』（法律文化社、以下、「情報法」）の刊行が開始された。記念論

文集としては、中島徹古稀記念として愛敬浩二ほか編『憲法学の領分』（日本評論社、以下、「中島古稀」）などがある。

学会活動の成果としては、日本公法学会編『公法研究85』（有斐閣、以下、「公法85」）、憲法理論研究会編『憲法問題の新展開（憲法理論叢書32）』（敬文堂、以下、「憲理研32」）、全国憲法研究会編『性の多様性と憲法学（憲法問題36）』（日本評論社、以下、「憲法問題36」）、比較憲法学会『民主主義とコミュニケーション空間（比較憲法学研究36）』（以下、「比較憲法学研究36」）、憲法学会『憲法研究56』（以下、「憲法学会56」）などが刊行された。

雑誌特集等については、辻村みよ子責任編集『憲法研究』（信山社、以下、「憲法研究」）では、「特集／日本の人権状況への国際的評価と憲法学」（憲法研究15）、「特集／最高裁判所裁判官の研究」（同16）が組まれた。法学館憲法研究所ロージャーナル（法学館憲法研究所、以下、「法学館」）では、「特集／デジタル社会と憲法」（法学館30=31）、「特集／『誰もが自分らしく生きられる社会』の実現に向けて：憲法パイ・デザインの観点から」（同32）が組まれた。有斐閣Onlineロージャーナル（以下、「YOL」）では、「特集／国際化と共生社会」、「特集／個人の尊重と平等を問い直す」、「特集／メディアと法」などが組まれた。

近年、環境、AIを筆頭に社会における急激な変化を背景として、現代的諸課題の解明には学際的研究や理論と実務の架橋が不可欠である。憲法学者の論文が文献月報の「憲法・国会法・選挙法」以外の箇所に登場する一方、憲法分野に実務家や憲法学以外の研究者が参入する傾向がますます高まっている。

雑誌連載としては、「憲法と家族法の交錯」（法時97.1～97.10）が開始された。今期継続中のもの